

仙台市環境審議会 第4回「杜の都環境プラン」改定検討部会

議事要旨

日時：令和2年1月20日（月）9:00～11:15

場所：TKPガーデンシティ仙台勾当台ホール2

I 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 次期「杜の都環境プラン」における重点的な取り組みのイメージについて

(2) 「杜の都環境プラン」改定検討部会における検討状況（環境審議会への報告案）について

(3) その他

3 閉 会

II 出席委員数

出席 7名

欠席 0名

III 議事要旨

司会	議事に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、永幡部会長に願います。
議長（永幡部会長）	初めに、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 会議の公開に関しては、環境審議会の運用にならない、本部会についても、個人のプライバシーに関する事などで、非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしたいと思うので、皆さまよろしく願います。 次に、議事録の署名については、こちらも環境審議会の運用にならない、部会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録とすることとしたい。前回は齊藤千映美委員に願ったので、今回は、五十音順で、齋藤優子委員に願いたいが、よろしいか。
齋藤優子委員	了承した。
議長（永幡部会長）	それでは、議事に入る。

会長)	議題(1)次期「杜の都環境プラン」における重点的な取り組みのイメージについて、事務局より説明をお願いする。
事務局	(資料1に基づき説明)
議長(永幡部会長)	<p>ただいま事務局より、次期「杜の都環境プラン」における重点的な取り組みのイメージについて、説明があった。</p> <p>前回の議論を踏まえ、仙台の強みを整理していただいたので、今回は重点的な取り組みについて、事務局の案をたたき台として議論を行いたいと思う。</p> <p>また、前回同様ホワイトボードを用意していただいているので、青木委員をお願いして、キーワードなどを書き残しながら進めたいと思う。</p> <p>早速議論に移りたいが、まずは大枠を確認したうえで、次に個々の内容を詰めていったほうがよいと思う。ご意見等があればお願いしたい。</p>
議長(永幡部会長)	<p>なければ、まずは私から一言コメントさせていただきたい。</p> <p>基本的にこの資料はよくできていると思う。目指す環境都市像のところ「杜の都の資源が活用され」とあるが、都市として資源を活用するのであれば、「活用し」が適切ではないか。</p>
齊藤千映美委員	私も一瞬どうかとは思ったが、「資源が循環するまち」というつながりで考えれば、「資源が活用され」でよいのではないか。
議長(永幡部会長)	中静委員はいかがか。
中静透委員	全体の構成は、これでいいように思う。
議長(永幡部会長)	齋藤優子委員はいかがか。
齋藤優子委員	<p>前回の議論も踏まえ、よくまとめられており、わかりやすいと思う。目指す環境都市像では、前回議論のあった「行動する」、「アクション」というような動的なところも出ていて非常によいと思う。</p> <p>ただし、これらの大前提となる、持続可能な社会を目指すということが、文言として入っていない点が気になる。資料2には、「持続可能なまち」という表現が入っているが、どのように取り扱っているのか。</p>
事務局(参事兼環境企画課長)	資料2別紙では、まだ仮置きだが、大きな都市像として「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」を掲げることを考えており、そこを目指していくために、具体的にどういうまちを目指していくのかということ、3つ掲げている。逆に言えば、この3つを目指していくことで、「持続可能なまち」を実現していくという考え方だと言えると思う。
齋藤優子委員	了解した。前回の議論を踏まえ、持続可能な社会をつくり上げていくためには、行動していかなければいけないということが、全体として確認できる

	<p>ようなつくりになればいいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>「持続可能な」というのは当然に全体にかかっている話であり、資料1は、そこを目指していくための具体的な議論をするためのものであるため、明示的には書かれていないということだと思う。</p>
齋藤優子委員	<p>資料1の中にも、どこかに「持続可能な」という言葉があったほうがいいのか。</p>
議長（永幡部会長）	<p>資料1は、外に出ていくことはあるのか。</p>
事務局（環境部長）	<p>資料1は本日の議論のための資料であり、次回の環境審議会に出す資料としては、これまでの議論をまとめた資料2の方である。ただし、今日の議論の記録として、例えば別紙2と同様に、資料1にも「持続可能な」という文言を追加して、残しておくということはあり得ると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>風間委員はいかがか。</p>
風間聡委員	<p>「持続可能なまち」とは何かを考えていた。普通サステイナブルというのは、後ろにデベロップメントがつく場合が多い。開発するときに、将来頭打ちにならないように持続的に開発するというのがそもそもの話だったと思うが、最近は何でも「持続可能な」という言葉がよく使われている。イメージや言いたいことはわかるが、具体的には、何なのだろうと考えていた。少し時間をいただきたい。</p>
議長（永幡部会長）	<p>青木委員はいかがか。</p>
青木ユカリ委員	<p>大きな方向性としてはよいと思うが、少し言葉が強いと感じた。こういうプランなので一定程度の強さのようなものは必要だと思うが、例えば「生かし合う」とか「育ち合う」というような、多様な主体が関わり合って進んでいくというようなことが感じられるとなおよいと思った。</p>
中静透委員	<p>少し細かいところになるが、環境省のWEBサイトによれば、宮城県が2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするということを表明した。宮城県は実質ゼロにするといっても、そのうちの大半を占める仙台市が実質ゼロにできるかが重要であり、仮に難しい場合には、市外のどこかとパートナーシップを組むということも考えたほうがよいと思う。そうすると、資料2のほうでは、市内域での循環を図るということを強調しているが、本当にそれだけでいいのかということになる。全体の大きなイメージはこれでいいと思うが、そういうことも見えたほうがいいのかと感じた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>実際どこまでできるかということを議論しながら、それが本当に実現でき</p>

会長)	ないとまずいということか。
中静透委員	目標や具体の施策が出てきたときに考える、あるいは全体の方向としてそういうところも目指していくというのもあると思うが、いろいろな可能性を考慮しながらも、全体のイメージの中にも少し盛り込んでおいてもよいのではと思った。
事務局（参事兼環境企画課長）	ただいまのご指摘に関し、1月9日から「地球温暖化対策推進計画」改定検討部会の議論がスタートしており、まずは、今までの振り返りや今後の大きな方向性について議論をいただいたが、今後、具体の議論が進んでいく中で、中静委員からお話があったようなことも踏まえながら、検討していかなければならないと考えている。今後、検討部会での議論の状況については、本検討部会にもフィードバックしていきたいと考えている。
議長（永幡部会長）	両部会の委員を務めていただいている風間委員からも、ぜひ向こうの部会の議論のようすを提供いただければと思う。
事務局（環境部長）	進め方等についてはご説明したとおりだが、全国的にも世界的にも排出実質ゼロを目指すという動きになっており、そういった流れを踏まえながら、現在は目指す都市像というような上からの議論を行っているが、今後は、具体の施策についてのボトムアップの議論だと思う。その中で、どこまで踏み込んでいくのかということを検討していきたいと考えている。
議長（永幡部会長）	高山委員はいかがか。
高山秀樹委員	本当によくまとめていただいていると思うが、最近どのような計画の中にもSDGs（持続可能な開発目標）が必ず入っていて、SDGsを意識して取り組むというような流れになっている。環境プランにおいても意識していかなければいけないのではないかと。
事務局（環境部長）	社会状況を踏まえれば、どのような計画であっても、SDGsを考えずに策定するということは想像しがたい。上位計画である総合計画においても、共通認識としてSDGsを意識した議論が進められている。一方この部会では、仙台らしさ、というところを重視して議論が進められており、SDGsはしっかり意識しながらも、仙台らしさを強く打ち出して進めていくことで、結果としてSDGsにもつながるというようなつくりになるのではないかと考えている。 ただし、上位計画である総合計画との整合性という部分もあるので、今後も庁内で調整を図りながら、進めていきたいと考えている。
議長（永幡部会長）	以前、SDGsのSは仙台のSで、というようなことを申し上げたが、仙台の問題を真剣に考えていけば、実はSDGsの達成にもつながっていると

	<p>いう形が、自治体の環境基本計画としては一番いいと思う。</p>
齊藤千映美委員	<p>重点的な取り組みの1つとして、「エコロジー体感プロジェクト」が挙げられている。環境都市像との対応では、「全ての主体が、環境のことを考えて行動するまち」が一番近いとのご説明だったが、取り組みのイメージを見ても、エコツアーの推進やにぎわいの創出、学習の機会を提供とあり、どちらかという今までの知識や経験の蓄積を活用した取り組みを行うというふうに見える。「行動する人」をつくっていくという強い決意があるのであれば、機会を提供するだけでなく、それが行動につながるというようなことがわかるように、もう一步踏み込んだものを検討していただきたい。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>事務局としても、ここは非常に苦心したところである。これまでのご議論でも取り上げられた、仙台は自然が豊かで魅力的な都市であり、多くの方が環境について考え、これまでも市民や事業者の皆さまと一緒に取り組んできたという実績や蓄積を強みとして生かして、プロジェクトとして打ち出せないかと考えたところである。先ほどご指摘のあった、行動につなげていけるような部分をもう少し出せないかという点については、今後、委員の皆さまからご意見をいただきながら、検討してまいりたい。</p>
議長（永幡部会長）	<p>市民が主導的にやっている面白いプロジェクトが随分出てきていて、例えば沿岸部の荒浜では、地域の人たちがビーチクリーンをしながら、そこに生息するカニや、鳴り砂など地域の魅力について知ってもらい、さらにそれを友達に広めてもらって、どんどん荒浜に人を呼ぼうというような動きもある。そういった動きは探せば幾らでもあると思うので、そういったところとうまく連携していくような道筋を考えておくとよいと思う。</p>
齊藤千映美委員	<p>重点的なプロジェクトとしてはこういう打ち出し方だが、例えば、指標として家庭からのCO₂排出量を設定し、モニタリングすることによって、実際に行動がどのように変わっているのかをきちんと確認していくというような方法もあると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>モニタリングというお話があったが、仙台にはいろいろな大学もあり、そういったことを題材にして研究してくれるようなところもあると思う。そうしたところと連携し、実際にどういう効果につながっているのかを確かめながら、次につなげていくというようなことも、1つのプロジェクトにできるとおもしろいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>私たちもプロジェクトの名称や取り組みを考えたときに、これまでの枠を飛び出せていないところがあったが、行動につなげるということが打ち出せれば、次期プランの特徴にもなるかと思う。</p> <p>大学等の連携というお話については、高等教育機関が集積していることが</p>

	<p>仙台の強みの1つであるというこれまでのご議論も踏まえれば、ぜひ学生の皆さんにも参加して行動していただき、さらにアカデミックに切ってもらって、その結果がまちに返ってくるというような仕組みが構築できればと思う。そうした形もまさに循環と言えらると思うし、新しさとしても出せらると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>3つのプロジェクトの具体的なご意見も出始めたが、大枠の方向性としては概ねこれでいいということだと思ふ。</p> <p>次は1つ1つのプロジェクトについて具体的に議論していきたいと思ふ。まずは、先に少しご意見があつた「エコロジー体感プロジェクト」について、ご意見をいただきたい。</p>
事務局（環境部長）	<p>ご意見をいただく前に、事務局の方でどのように議論をしてきたかというところをご紹介させていただきたい。</p> <p>人づくりを受けらるようなプロジェクトが、1つどうしても欲しかったが、一方で、人づくりは全ての施策のベースとなる部分なので、そのすみわけをどうするかという課題があつた。何とか市民に直結するやるテーマでのプロジェクトを考えようということ、こちらの案をお示ししたわけだが、プロジェクト名は直前まで悩んだ。最初、体験という言葉を入れていたが、体験だと受動的に感じらるということ、体感とした。体感であれば、目で見ただけではなく、音を聞く、肌で感じる、あとは風格、品格みたいなものまで、五感に加えて、六感のやるものを含めて感じらるやるまちをつくっていきたい、というのがこのプロジェクトだと思ふ。まずはこれをたたき台として、皆さまにご意見をいただきながら、検討していこうということ、今回の案をお示したところである。</p>
中静透委員	<p>今のお話を伺つていて、ここの部分は、いわゆる環境教育的な要素だと思ふが、そこで終わつてしまふとおもしろくないと思ふ。例えば、エコツアーや、生物多様性と音楽・アートの組み合わせというものを、にぎわい創出だけではなく、地域産業にまで育て上げらるやるといったやるところまで踏み込んでやれるといいと思ふ。</p>
齊藤千映美委員	<p>中静委員のご意見は大変わかりやすくていいと思つた。体験したことだけではなく、それに自分が参加することや、関心を持って実際に関与することができるようになるということが、ゴールなのかなと思ふ。学生を巻き込んでというやる話や、学校教育との連携という話も、いろいろ発信するだけではなく、関わらる人たちが今度は実施主体者となつて関与していきやるやる動きをつくり出す、というところまで盛り込めらるやるといいと思ふ。</p> <p>その中心となる環境活動に参加されていらる方は、年代的に働き盛りのやる方や、退職されたやる方などで、すごく一生懸命やつていらるやる方がたくさんいらる</p>

	<p>が、それが世代を超えて若者たちにつながっていくというようなイメージがあるといいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>環境活動の現場を見に行くと平均年齢がどうしても高いという印象を受けるので、いろいろな層がもっと入り込めるように、具体的な方策を考えていく必要があると思う。</p>
齊藤千映美委員	<p>関わった人たちが「ああ、これ自分たちもできるかもしれない」と思って、仙台で農業をするようになるとか、新しい環境ビジネスを発信できるようになるというようなものを、目標の片隅に置きながら、作りこんでいけるといいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>東部地域の集団移転跡地の利活用でも、農業体験ができる施設も入ってくるようだし、秋保地域でも市民農場のようなものが動き始めているようなので、そういう動きをうまく生かして、広げていけるようなアイデアを考えていくといいのかもしれない。</p>
事務局（環境部長）	<p>東部の跡地利用においても、市民農園やビオトープをつくる計画など、これまでになかったコンテンツが現れることになるので、これを大きなチャンスととらえて、他部局ともうまく連携をとりながら進めていくと、今までになかったような機会を生み出していけるかもしれない。</p>
中静透委員	<p>重点的な取り組みの「グリーン&クリーン都市プロジェクト」について、環境に配慮した建築物の整備の促進だけではなく、環境負荷の小さい製品や物を使うということ、きちんと示した方がよいと思う。</p> <p>また、農業や生産に関しても、環境負荷の小さいものをつくっていくことが重要であり、その両方を「グリーン&クリーン都市プロジェクト」の中に盛り込んでいけるといいと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>ただいまのお話は、地球温暖化対策等の推進に関する条例にも規定している部分でもあるため、この中に盛り込めるような形で考えていきたいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>建物を更新する際に、あるものを生かすことによって、まちの価値を高めていくということもできると思う。単純にどんどん新しくすればいいというような考えではなく、どうするのがベストなのかということをきちんと考えられるような仕組みを用意しておいたほうがよいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>公共施設も耐用年数が終わったからといってすぐに更新するという考え方ではなく、長寿命化という考え方が中心になっている。その際に、先ほど中静委員がおっしゃったような環境負荷の少ない製品を充当していきながら、建物全体は使っていくといったやり方はあると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>様々な取り組みを促進するためには、例えば表彰制度のように取り組みが</p>

会長)	評価され、さらに、そうした取り組みが周知されるような仕組みが必要だと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	事業者と本市が連携して温室効果ガスの排出削減を進めるアクションプログラムの中でも、優れた取り組みをしている事業者を積極的に紹介し、表彰する制度設計を考えている。それに限らず、環境に配慮した取り組みについて、積極的に多くの方に知っていただき、いいなと思ってもらえるような仕組みをつくっていくことは重要だと思うので、今後、検討していきたいと思う。
齋藤優子委員	<p>「グリーン&クリーン都市プロジェクト」は、仙台市が主体となって取り組む内容を記載していると思うが、グリーンビルディングに関して、東北ではZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）がほとんどないというような話もある。</p> <p>一方、プラスチック問題に関しては、国がプラスチック資源循環戦略を策定した際に、バイオマスプラの利用促進について触れており、こうした国の施策の中で、自治体として何をしていくのかを検討していく必要がある。国が地域循環共生圏という考え方を示しているが、どの地域もなかなか独自性を出せずにいるような中で、バイオマスプラも含め、ワンウェイプラスチック削減に向けて、特色があるものを打ち出していければいいと思う。</p>
風間聡委員	<p>先ほど表彰制度の話があったが、先日の「温暖化対策推進計画」改定検討部会でも、事業者の取り組みを促進するためには、インセンティブを与えることが重要だという議論になった。ミシュランの三ツ星ではないが、仙台らしさということで、例えば、最もよい取り組みには三日月を3つつけるとか、そういうことをしてはどうかという話になった。そういう仕掛けは、温暖化対策に限らず、全体としてやってもいいと思う。</p> <p>「エコロジー体感プロジェクト」の話もそうだが、今、具体的なことをここで考えていてもあまり知恵は出てこないと思うし、むしろ一般の方のほうが、ユニークなアイデアが出てくると思うので、民間のいろいろなプロジェクトや取り組みを積極的に紹介し、表彰していくと、それが広まっていくのではないかと。むしろ一般の人に考えてもらうというような仕組みをつくるというのもいいのではないかと。</p>
議長（永幡部会長）	確かに一般の方がたくさんアイデアを出してくれれば、相乗効果でさらにおもしろいアイデアが出てくると思うので、ぜひそのような仕組みを考えていただければと思う。
事務局（環境部長）	委員の皆さまにご協力いただき、12月1日に市民ワークショップを開催したが、私たちの想定を超える様々なアイデアが出て、市民の力の大きさを感

	<p>じた。若い世代でも環境について真剣に考えている方がたくさんいらっしゃって、そこを引き上げていくためにも、気づきの機会が必要だということを実感した。具体的方法については、今後も議論していただきたいと思うが、いずれにしても市民のアイデアであるとか、それに賛同する人たちが集ってくるとか、そういう循環が必要だと思う。</p> <p>また、先ほどプラスチックについてお話があったが、現在ちょうど来年度の予算を検討しており、その中では、プランに先行するような形で、プラスチック削減に取り組もうというふうに考えている。</p> <p>さらに、ZEBなどのグリーンビルディングについては、先行している都心再構築というプロジェクトの中で、容積率を緩和する条件の1つとして、環境に配慮したビルということを盛り込んでおり、少しずつ取り組みを始めている。</p>
議長（永幡部会長）	それは、もう先行しているため、この重点プロジェクトには入れないということになるのか。
事務局（環境部長）	まだ本格的な実施とは言えないので、今後もこの重点プロジェクトに位置付けて取り組んでいきたいと考えている。
中静透委員	やはり金融業をどう関わらせていくかということを検討してもらいたい。グローバルな金融だけではなく、地域金融の中にも、環境に配慮した企業を重視して投資するような動きがある。「エコロジー体感プロジェクト」であれば、さまざまな主体と連携してと、あるので、金融業が何をできるのか考えるワークショップをやるということも考えられると思うし、「グリーン&クリーン都市プロジェクト」であれば、表彰もインセンティブにはなるかもしれないが、金融業がどう融資をするかということ、企業の業績に絡むのでいろいろな効果を持ってくると思う。そういう仕組みを考えていただけると踏み込んだものになると思う。
事務局（環境部長）	ESG投資（環境、社会、企業統治に配慮した投資）のように、金融業も環境面を重視するようになり、まさしく環境が価値を生むような状況になってきていると思う。そういう意味では、地域の金融業の方々に参加していただくと、逆に融資を受ける側の企業も「これだったらうちもがんばってみよう」という考えになると思うので、接点をつくっていけるようにしていきたいと思う。
議長（永幡部会長）	「グリーン&クリーン都市プロジェクト」の具体的な目玉の1つとして盛り込めるとおもしろい。
事務局（参事兼環境企画課）	どこのプロジェクトに入れるのがいいかというところもあるが、先ほどの中静委員からのお話で感じたのは、例えば私どももアクションプログラムの

長)	<p>ご説明などで事業者の方とお話をしても、環境に配慮することが非常に重要だと考えている方もいらっしゃるが、一方で、環境配慮と事業活動は相反するという感覚をお持ちの方もいらっしゃると感じている。</p> <p>行政が言ってもなかなか受け止めていただけないこともあるが、取引をしている金融業の方から発信していただけると、事業者の方の受け止めも変わってくると思う。もちろん金融業だけではなく、取引がある関係業者も含め、みんなが環境に配慮することが、企業活動にとってもプラスになると考えていただけるようになってくると、一挙に流れが変わってくると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>商工会議所と組んで、何かできないか。</p>
高山秀樹委員	<p>例えばこれからワンウェイプラスチックの削減といった取り組みをする中で、小規模な事業者だと、どうやったら自分たちの企業が取り組めるのかがなかなか分からないところがある。できればそういった取り組みを、地元の企業に還元できるような仕組みがあればいいと思う。例えばワンウェイプラスチックであれば、地元の企業でカキの殻を使ったプラスチックを製造している事業者がいるが、そういったところを発掘して、仙台市が推奨して、地元の企業に活用いただくというように、仙台市が後押しをすることで、それが地域の経済にもプラスになるという仕掛けが必要かなと感じた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>商工会議所と仙台市が組むといったようなプロジェクトをつくって、それがどこかのプロジェクトの1つの目玉となるとおもしろいと思うので、一度商工会議所と仙台市で相談してみてもどうか。</p>
事務局（環境部長）	<p>仙台らしさを売りにした、新しい環境プランの中で、行動とか、環境と経済成長の好循環というところを「見える化」するような取り組みを連携してやっていければいいと思う。ぜひ相談にうかがわせていただきたい。</p>
議長（永幡部会長）	<p>もう1つは、環境審議会に町内会の代表の方もいらっしゃるなので、町内会と連携した取り組みができるといいと思う。先ほど環境活動に参加している方の平均年齢が高いという話が出ていたが、町内会も何かおもしろいことがあれば、もう少し若い人が来て、町内会の高齢化率も少し下げられるかもしれないので、お互いにとっていいことなのではないか。現状は具体的な案がないが、地元の企業の方たちと連携して行うものが1つ、それから町内会と連携して行うものが1つ入ってくるといいと思う。</p>
齋藤優子委員	<p>議論を聞いていて思ったが、環境と経済成長の好循環というような話があったときに、「エコロジー体感プロジェクト」というものが、どうしても受け身に感じる。12月のワークショップに参加して、あのような場に参加して共感して、そしてアクションにつながって行くんだなあと感じた。そのた</p>

	<p>め、行政がワークショップなどの仕掛けづくりや参加を促していただき、金融や町内会といった立場が違う方たちが、議論を通じて共感して、新しいものを生み出していくことで環境と経済のデカップリングができてくる、個々人もアクションにつながっていくというようなところが、この3つ目の「エコロジー体感プロジェクト」に出てくればよいと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>町内会や地域での活動としては、例えばクリーン仙台推進員や集団資源回収といったところでご協力をいただいているが、地域に限らず環境が多くの方の共通の関心事になるような仕掛けが必要だと思うので、今後、検討していきたい。</p>
中静透委員	<p>「エコロジー体感プロジェクト」を、五感で学べるコンテンツを発掘・発信ではなく、環境価値の発掘・発信にしたほうがいいのではないかな。そのぐらい大きく言って、環境配慮行動だけではなく、環境を生かして地域をつくっていくぐらいの表現にしたほうがよいのではないかな。</p>
事務局（環境部長）	<p>これまでの議論を踏まえると、このプロジェクトにはいろいろな要素が入ってきて、この表現ではとても受け切れないし、それぐらい可能性のあるプロジェクトになり得ると思う。ここは目玉になってくると思うので、今のご指摘を踏まえながら、検討していきたいと思う。</p> <p>いずれにしても、この「エコロジー体感プロジェクト」と仮置きしているところのキーワードは、人の介在だと思うので、そういったところを大切にしていきたいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>中静委員のご意見を踏まえれば、例えば「環境創造プロジェクト」といった方が適切ではないかな。</p> <p>今も、生物多様性と音楽・アートと組み合わせた面白い企画をやっているが、例えばもっと積極的にアーティストに入ってもらって、仙台の環境を使い、市民を巻き込んだ形で新たな作品をつくってもらうところまで踏み込んでもよいのではないかな。アートの世界でも、ソーシャルエンゲージメントという社会に積極的に関わっていこうとする動きがあるので、そうした動きをうまく生かしていく方法もあると思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>そうなってくると本当に創造であり、にぎわいも出て、経済効果も出てくる総合的なプロジェクトになり得ると思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>「エネルギー循環プロジェクト」については、まだ意見がでていないが、こちらについてはいかがかな。</p>
事務局（環境部長）	<p>循環というのは、この部会を始めたときから、キーワードとしてあったため、そこを意識した。「グリーン&クリーン都市プロジェクト」は、どちらかというと都市という物理的なものであり、「エコロジー体感プロジェクト」は</p>

	<p>人であるが、エネルギーというのは、目に見えないが、血液のように確実に循環をしていかなければいけない。また、東日本大震災以来、エネルギー問題というものが大きく関わっているということもあるので、目には見えないけれども循環しているということがイメージできるようなことがやりたいというのが、私たちの思いである。</p>
議長（永幡部会長）	<p>現状、仙台では、木質バイオマスはどれくらい活用されているのか。</p>
事務局	<p>木質バイオマスについては、エネルギーとしての利用は非常に少ない状況だが、例えば街路樹の剪定枝などは、給食の残渣などと混ぜて堆肥化させている。一方、森林整備に伴う間伐材に関しては、製材として売り払えるようなものは市場に出ていくが、製品にならなかったようなものは、運び出すのにもコストがかかるということで、森林にそのまま放置して自然に返しているという状況だと聞いている。</p>
議長（永幡部会長）	<p>これを改善していくような方策は、ある程度目途は立っているのか。</p>
事務局	<p>なかなか課題が多い部分もあり、すぐに改善するというのは難しいが、森林を所管する農林部局や、街路樹を所管する建設部局、また、現在、環境アセスメント手続きを進めている木質バイオマス発電の事業者とも、担当者レベルだが意見交換をしており、どういったことが実現可能なのかなどについて模索しているという状況である。</p>
議長（永幡部会長）	<p>里山の保全はとても大事だと思うので、プロジェクトとしてはぜひ目玉であってほしいところだが、一方でどれくらい現実に前に進むことができるのか心配なところでもある。</p>
事務局	<p>環境プランの計画期間が10年ということなので、スタートからすぐに全てが回るというのは難しいかもしれないが、先ほど申し上げたバイオマスの発電事業者も、当初は輸入材がメインとなるが、地域貢献や協力の部分で、少しでも地域材を入れていくことができるかもしれないと聞いており、例えば、モデル的なところからスタートして、少しずつ形になって、広がっていけばというふうに考えている。</p>
齋藤優子委員	<p>確認をさせていただきたいが、「エネルギー循環プロジェクト」の取り組みイメージの中で、「生ごみなどの廃棄物系バイオマスについて、発電や堆肥化等により資源循環を推進」と記載されている。今、仙台市では各家庭に生ごみ処理機の購入に対して助成していると思うが、それとは別に大規模にやっていくというような計画なのか。熱エネルギーの有効利用を促進と書いてあるが、例えばヨーロッパやEUにおける地域暖房のように、市民生活におけ</p>

	<p>る廃棄物からの熱エネルギーの有効利用というところまで持っていくとなると、抜本的なインフラの整備が必要となるが、こういったイメージを持っているのかを確認したい。</p>
事務局（施設課長）	<p>仙台市の3つの清掃工場では、ごみの焼却により発生する余熱を近隣の温水プールなどに供給している。また、蒸気を使って蒸気タービンを回して発電も行っており、工場内での電力利用に加え、余剰分は電力会社に売電している。発電効率など技術もどんどん上がってきているので、今後の展開に関しては、さらなる発電効率の向上を目指した発電設備の導入ということになるかと思う。蒸気の利用については、今お話があったとおりヨーロッパなどでは地域冷暖房が発達しているということであるが、なかなか日本では事例が少ない。可能性について検討の余地がないわけではないが、特に廃棄物処理施設を利用しての地域冷暖房ということになるとなかなか聞かない。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>廃棄物のバイオマスについて、基本的に家庭の中で出てくる生ごみの分別回収は難しく、引き続き、生ごみの乾燥機などをお使いいただきながら堆肥化を進めていく、あるいは、生ごみ自体を減らしていくというような方策になるかと思う。</p> <p>一方、事業系については、食品を扱うようなスーパーや飲食店などで、大量の食品廃棄物が出る。仙台市の施設である堆肥化センターでは給食残渣などを集めているが、民間ベースでもバイオマスのプラントが幾つか出てきているので、そちらのほうに誘導するような形になるかと思う。行政が直接事業者のごみをリサイクル処理するというよりは、民間のそのような活動を支援するような形になると思うが、具体的にはこれから検討していきたいと考えている。</p>
齋藤優子委員	<p>了解した。</p> <p>先ほど、仙台市外の地域とのパートナーシップというような話もあったが、日本の人口が減っていく中で、ごみの広域化処理という話も出てきているので、エネルギーや資源循環について、仙台市の枠を越えたところとのつながりというのは、可能性としてあり得るのかもしれないと考えた。</p>
議長（永幡部会長）	<p>、広域循環について、仙台市から呼びかけていくといった内容をプランに入れておくということは可能か。</p>
事務局（環境部長）	<p>最初から盛り込んでいくと、相手先から聞いていないというような話にもなるので、現段階としては、腹案として持ちつつ、最終的に判断させていただきたい。</p>
事務局（参事兼環境企画課）	<p>現行のプランにおいても、計画の推進体制の中で、近隣自治体等との連携というのは盛り込んでいるが、具体的な相手方や内容については触れていな</p>

長)	い。具体的な決め事などがない中では、現行のような書きぶりになると思うが、10年の計画となるため、今後、具体の連携ということが出てくるかもしれない。
議長（永幡部会長）	もし書き込むのであれば、本当に連携ができそうな道筋をつくってから書いたほうが良いと思う。 風間委員が「持続可能」とは何かという話をされていたが、外から物をどんどん持ってくるというのは持続的だとは思えないので、まずは近隣とやりとりする方向で考えていくことが重要だと思う。先ほど、バイオマス発電所の燃料は外国から輸入するということがあったが、最初はそうかもしれないが、いつまでも続けていいのだろうかという議論に必ずなってくると思う。そうしたときに、身近なところと連携して取り組めるような道筋をつくっていくという作業も重要だと思う。
事務局（環境部長）	実際は、地域材を集めようと思ってもなかなか林業事業者が少なく、集め切れないというのが現状のようだ。卵が先か鶏が先かの議論だが、発電所ができて需要が起きると、供給者が増えるという循環が生まれる可能性もある。
中静透委員	具体的な質問になるが、仙台市では、森林環境税や森林環境譲与税は、市だけでほぼ使い切るのか。
事務局	担当部局から聞いたところだと、本来の目的である市内の森林整備に使っていきたいとのことであった。今は、森林整備の前提となる、森林所有者の調査などが課題であるとのことであった。
中静透委員	大都会になると自分のところでは使い切れずに、パートナーシップをどうしても組まなければいけなくなる。これからそのお金がそんなに増えるとは思わないが、そういうところで、具体的なパートナーシップを考えるということはあり得ると思った
事務局（環境部長）	森林環境税については、1つの基礎自治体だけでは対応し切れず、仙台市側にそういった連携のニーズがなくても、周辺の市町村から逆に一緒にやらないかという話も入ってくるかもしれない。
風間聡委員	今、森林の話が出てきたが、環境影響評価審査会でも、森林を切って太陽光パネルを置くということについて仙台市はどう考えるのかという意見があった。仙台市の環境を考えると、環境プランが、憲法のような拠り所になるので、再生可能エネルギーの普及と森林保全のどちらを優先するのかということをきちんと示す必要があると思う。 太陽光パネルだけではなく、風力や水力も含め、再生可能エネルギーだからといって何でも進めてしまうと生態系を損ねてしまう場合もある。これについて、環境プランはどう考えるのかというのは、何らかの形で示していく

	<p>必要があると思う。</p>
<p>中静透委員</p>	<p>仙台市の条例アセスでは、太陽光は面積20ヘクタール以上が対象とされているが、仙台市の地形を考えると、20ヘクタールというのは自然環境への影響が非常に大きい。そのため、条例アセスで20ヘクタールよりも小さいところも対象にしてしまうという手もあると思う。業者の側に立つと、それでは全然採算が採れないという話になると思うが、森林を切って、太陽光というのは、トータルでその地域の人たちがどれぐらい利益を得るかということを見ると、20ヘクタールというのは少し大きいと思う。</p> <p>今回、国のアセスに太陽光が追加されたが、面積的には100ヘクタールぐらいを対象としており、そんなところを現実問題として探するのは難しい。仙台市であれば、特に無理なので、法アセスはあり得ないと思うし、条例アセスでも20ヘクタールというのはかなり広いと思う。</p>
<p>風間聡委員</p>	<p>ここに太陽光発電等を推進と書いてしまうと、森林を切ること到大義名分を与えてしまうと感じた。</p>
<p>議長（永幡部会長）</p>	<p>本当は、再生可能エネルギーも、どこまで環境に対して配慮したかによって値段が異なってくるような仕組みになるとよいと思う。</p>
<p>事務局（環境部長）</p>	<p>再生可能エネルギーであれば、木を切っているとは全く思っていない。例えば、「環境に配慮した上で」といった一定の要件がないと誤解を与えと思うので、検討したい。</p>
<p>議長（永幡部会長）</p>	<p>太陽光パネルのために木を切るというのは、景観の問題も出てくると思う。環境について議論すると、狭い意味での環境について考えられる場合が多いが、景観も環境の中で大きな要素だと思う。</p> <p>仙台の美しい景観を守っていかない限り、環境に配慮した行動につながっていかないと思う。その意味では単純にエネルギー問題だけで語るのではなく、このまちの美しさをどう守っていくのかという話にもつながる。「エコロジー体感プロジェクト」で、アートが入ってくるのは、そうした話と関連していると思っており、先ほどアーティストを巻き込んで何かやったらいいという話をしたが、みんなでクリエイティブな活動をする中で、それが成立するのはこういう環境があるからだということを実感してもらうことが重要だからである。</p>
<p>事務局（環境部長）</p>	<p>化石燃料に頼らずにエネルギーを生み出すことはとても重要だが、部会長がおっしゃったとおり、景観や生物多様性への影響、廃棄物の問題など負の側面もある。そのどちらを優先するのかということを示していくのが環境プランになるのか、アセスなるのかはわからないが、少なくとも環境プランの中でも誤解を生まないような表現にしていきたいと思う。</p>

齊藤千映美委員	<p>太陽光パネルの話だが、仙台の森林のほとんどは、原生林というより人が手をかけてきた二次林であり、一度人間が切り開いたところに、新たな里山の生物多様性ができてきている。それがどんどん放棄されて、管理ができていない状況だが、もともと人の手が入る前に、生態系サービスが提供されていたときの森林とは、全く状況が異なる。そのことも踏まえれば、100万人都市で循環型社会をつくるために必要なエネルギーをそこで供給していくということは、必ずしも問題ではないと思う。今、奥山のほうでは、むしろ風力発電などのほうが問題となっている。太陽光パネルで森林を伐採することについて、全てがいけないというのではなく、環境アセスメントで、防災や生態系サービス提供の観点から、きちんと評価するようになれば、それが一番いいのかなと思っている。</p>
議長（永幡部会長）	<p>このまちを維持していくためにどれだけのエネルギーが必要なのか、そのために森林を伐採しても本当に大丈夫なのかというのはもう少し慎重に議論する必要があると思うが、ここであればパネルを置けそうだからと、事業者が簡単に入ってきてしまうということは避けたほうがいいので、その指針となるものはつくっておく必要があると思う。</p>
青木ユカリ委員	<p>この前、里山の保全活動をしている団体の方にお話を伺ったが、まさに今の議論の現場のようなお話であった。牧草地と森林があるような場所で、近くの小学校が、総合学習等で定期的にその場所を利用していたのだが、今年の夏ごろから、太陽光パネルが敷き詰められてしまい、そこにはもう入れなくなってしまった。団体のホームページにも見晴らしのいい牧草地の写真が上がっていたが、その光景はもうないというお話を伺った。</p> <p>エネルギーの問題は、市民生活におけるプラス面もある一方で、近くに暮らしている人たちにとっていいと思えるような空間が唐突になくなることもある。そうした環境がなくなることは、特に子どもたちの教育といった部分で、残念だと思った。</p> <p>こうした問題は何を軸にどう決めていくかというところが難しいと思うが、プロセスを共有しながら進めていく、あるいは価値判断をしていくときに、市民が参画し、情報が共有され、意思決定に積極的にコミットできるようなプロセスがあるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>現状では、市民が意思決定に関わろうと思ったら、アセス手続きの中で意見を提出するしかないのか</p>
事務局（環境部長）	<p>開発事業に関しては、おっしゃるとおりである。</p>
議長（永幡部会長）	<p>それぞれの地域の人たちが、自分たちの地域はこうしたいという意見を、</p>

会長)	直接反映することは、可能なのか。
事務局（環境部長）	<p>太陽光発電に関しては、なかなか難しいとは思う。自分の土地に太陽光パネルを並べるという私権に対して、行政がどれだけ制限できるのかというハードルがあると思うし、さらに地域の住民や、全く関係のない人が関与できるのかという、相当ハードルがあると思う。</p> <p>一方で、ムーブメントが起こって声が大きくなってくると、思い直す事業者もいるとは思う。ただし、既に土地を所有してしまっている場合は、その土地をどうするのかというような問題もあるので、一筋縄ではいかない難しさがあると思う。</p>
中静透委員	<p>今のような話は、生態系サービスに対する経済的価値という話とリンクしてくる。例えば景観が変わったという話も、景観を楽しんでいた人はただで楽しんでいただけだが、それを森林環境税のようなもので払うと考えると経済的な価値をみると、太陽光パネルを置くよりも、森林を保全したほうが得になるという話になれば、みんな太陽光パネルを置かずに、森林を保全してくれると思う。</p> <p>そういうところを含め、仙台市としてどのように考えていくかを、そろそろ考えていったほうが良いと思う。今回の環境プランの中に入れるかどうかはわからないが、少なくとも公共的な生態系サービスに対して、これからどういう価値を持たせていったらいいのかということは、これから何年かけて議論していかなければいけないことだと思う。ただし、意思決定の問題も含めて、アセスメント条例だけに頼っている時代ではもうないという気はしている。</p>
事務局（環境部長）	<p>今、非常に重要な時期を迎えていると思う。環境プランを策定するのは、10年に1回しかなく、議決も要する重要な計画であるから、こうした機会にしっかり議論して必要なものは盛り込むことが重要だと思う。</p> <p>人それぞれ価値観は違っており、全ての人を100%満足させることはできないかもしれないが、仙台市の場合はこういう価値を大切にしていこうといったものを見せられるような努力をしていきたいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>プランの中で具体的にこうするというを書き込むだけではなく、そういうものをみんなで話し合えるような場をつくるということを書き込んでおくことも重要かもしれない。</p> <p>リオ宣言以来、意思決定に市民参加が重要だということが言われていても、日本ではなかなかそれが実現してきていない状況にある。そろそろ本腰を入れて、市民が関われるような仕組みを考えていく必要があり、そのための第一弾として、まずみんなで話し合う公共に開かれた場をつくらうということこ</p>

	ろから、始めていければと思う。
中静透委員	「エコロジー体感プロジェクト」の中にそういったものも盛り込めるといいと思う。環境だけではなく、地域の将来を考えるワークショップのようなものを、プロジェクトの1つの目玉にするのもありかもしれない。
事務局（環境部長）	行政の手続きの中でという、なかなか難しいと思うが、議論する場を設けることで、市民の意識が高まり、その結果、行政が動くという流れはあり得る話だと思う。方法はいろいろ考えられると思うが、いずれにしても情報を共有して議論するという事は、これから人口が減少し、社会課題が山積している中で、環境問題に限らず、重要だと思う。
議長（永幡部会長）	これまでの議論を踏まえると、「エコロジー体感プロジェクト」という名称自体も、もう少し広げたほうがいいのかもわからない。
事務局（参事兼環境企画課長）	何かを推進する中で価値判断が必要なのではないかというお話だが、環境プランが10年間の計画だということを考えると、10年の間に様々な状況や、その時々々の価値観というものが変わってくると思うので、例えばこのプランの中で1つの価値だけを打ち出すというよりは、何か起きたときに、みんなが参加して、その時の問題や状況に基づいて判断していくというようなことを書き込んでおいた方が上手く機能するのではないかと感じた。
議長（永幡部会長）	本日、それぞれの重点プロジェクトに対して随分意見が出たので、一度整理していただいて、さらに議論を深めたいと思う。 それでは、この件は以上とする。
議長（永幡部会長）	続いて、議事（2）「杜の都環境プラン」改定検討部会における検討状況（環境審議会への報告案）について、事務局より説明をお願いします。
事務局	（資料2に基づき説明）
議長（永幡部会長）	ただいまの事務局の説明について、意見等があればお願いしたい。 確認だが、本日の議論に基づいて変更される場合には、環境審議会より前に、部会委員に周知されるということでしょうか。
事務局	変更内容について部会長と調整させていただいた上で、環境審議会の委員の皆さまに送付する前に、部会委員の皆さまに情報提供させていただきたい。
議長（永幡部会長）	ぜひ、そのようにお願いしたい。
中静透委員	検討状況の報告のため、全て反映できなくてもよいと思う。
議長（永幡部会長）	個人的には資料1の左側の図がすごくよくできているので、これが審議会の資料には載っていないのが少しもったいないと思った。
事務局（環境部長）	今回は資料をコンパクトにしたいということもあったため、このような形にさせていただいたが、部会の中で相当議論をいただいた部分なので、今後、

	作成するプランのほうに反映できるようにしていきたいと思う。
齊藤千映美委員	資料2別紙の目指す環境都市像について、1つ目の「全ての主体が環境のことを考え、行動するまち」の文中に、「こうした行動のあり方を杜の都スタイルとして内外に発信します」とあるが、具体的にどのようなものを「杜の都スタイル」と考えていて、内外に発信するというのはどういう意味なのか。これまで「杜の都スタイル」という表現は出てきたのか。
事務局	検討部会の論点の1つであり、また、委員の皆さまに参加いただいた、先月の市民ワークショップのテーマとした「仙台ならではの環境に優しいライフスタイル、ビジネススタイル」を端的に表した言葉として「杜の都スタイル」を使っており、これまでも資料に何度か出させていただいた表現である。例えば、「グリーン&クリーン都市プロジェクト」で環境に優しい都市を目指して取り組みを進めていくことにより、行動を実際に起こす市民の方々や、ビジネスのあり方などが確立され、浸透して拡大していくこと、そういったことを仙台らしいスタイルのあり方として発信できればと考えている。
齊藤千映美委員	鍵括弧つきで「杜の都スタイル」としているの、何か特定のものを指しているように見える。例えば、今までの議論で言うと、地域における町内会や子ども会で新しいモデルをつくれなとか、企業の活動のモデルをつくれなといったような意見があったが、そういったモデルづくりを通して、仙台ならではのモデルを、1つのケーススタディとして発信していくということもありかと思った。
事務局（参事兼環境企画課長）	イメージとしては、行政が一方的に事例を示すのではなく、地域の方々や事業者が何か新しい取り組みを行っているというようなことを、1つの仙台ならではのスタイルという形で紹介・発信し、それが「杜の都スタイル」というふうに見えればと考えている。
齊藤千映美委員	了解した。
議長（永幡部会長）	ほかにはいかがか。それでは、この件は以上とする。
議長（永幡部会長）	次に議事（3）その他だが、本日の部会を通してのご質問、ご意見などあればお願いします。 特になければ議事については以上とするが、事務局から連絡事項はあるか。
事務局（企画調整係長）	事務局から2点、ご連絡申し上げます。 1点目、次回の環境審議会について、2月3日（月）10時からを予定している。 2点目、次回の検討部会について、3月16日（月）9時からを予定してい

	る。どちらの会議についても、後日正式に案内をお送りさせていただくので、 よろしく願います。
議長（永幡部 会長）	以上で本日の検討部会の議事を終了する。 審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。

令和 2 年 3 月 2 日

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 部会長

氏名 永幡 朝

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 委員

氏名 齊藤 優子